

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	多様化する世界と静岡県経済・企業への持続可能性への影響				
研究組織	代表者	所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	宮崎 晋生
	研究分担者	所属・職名	国際関係学部・講師	氏名	飯野 光浩
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	宮崎 晋生

講演題目	多様化する世界と静岡県経済・企業への持続可能性への影響
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>1) 目的</p> <p>当研究での目的は、多極化した世界が経済や持続可能性に及ぼす影響を以下の2つの視点から研究することであった。多様化する世界での民間企業の行動、および多極化した世界の背景にある先進国の経済的停滞とグローバル・サウスの経済的台頭という世界経済の構造変化の2点である。この構造変化がもたらしめている影響を国際経済関係論及び国際政治経済学の観点から研究、これが今後の持続可能性に及ぼす影響を考察するものである。</p> <p>2) 成果および今後の展望</p> <p>多極化した世界の背景には、先進国の経済停滞とグローバル・サウスと呼ばれる新興・途上国経済の急速な台頭がある。この世界経済の構造変化を受けて、先進国が世界を主導する力は落ちている。それは、漸減的にアメリカの覇権が低下して、世界の秩序の維持に多くのほころびが見えているからである。このことは、ウクライナ紛争やイスラエルとハマスの紛争から明らかである。</p> <p>多極化した世界では、複数の有力な勢力が互いに優位性を競い合っている。そのため、各勢力グループの間で協力する機運はなく、互いの力を誇示することに執着している。これは、2025年1月にトランプ大統領が再登場してからさらに顕著になっている。</p> <p>このような現状で、気候変動や多様性、貧困削減、飢餓撲滅まで幅広い意味をもつ持続可能性は岐路に立たされている。これらの課題には条約や協定など国際的な取り決めに基づく国際協調が欠かせない。しかし、現在はルールに基づく協調の動きは影を潜めて、力による一方的な動きばかりが目立っている。</p> <p>多極化した世界を体現しているトランプ2.0の世界では、自国第一主義が強力に推進されており、持続可能性はその存在が根底から覆される事態に限りなく近づいている状態である。</p> <p>翻って静岡県内企業の動向を見ると、階層的ケイレッツ型サプライチェーンに依存してきた中堅～中小企業レベルの経営戦略にも変化が生じ始めている。特に注目したいのは静岡市内を中心に「脱ケイレッツ化」に向け、対等な立場による地域企業間ネットワークが志向される動きが見られることである。2023年以降、特に製造業企業を中心に製造現場を一般公開するOpen Factoryの動きが「ファクハク」という形で見られている。主としてB to B企業により自発的に異業種交流・連携や市民・エンドユーザーとの接点が創られる、これまでになかった動きである。一般に強い産業集積地域（クラスター）には「柔軟な専門化」（専門技術に特化した中小企業がネットワークにより課題解決すること）が見られているが、静岡では業界/ケイレッツ外との連携に不足しその傾向が弱かった。この「ファクハク」を契機に、各企業により連携のネットワーク構築と「柔軟な専門化」による強い産業集積への転換が期待されよう。この流れは、まさしく多極化する世界での創造的適応 Creative Response として静岡県経済の持続可能性への鍵となるだろう。</p>